

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
6月	1,057	763	813	26	0	2,659	1,362	37	250	230	109	1,071	5,718
累計	3,542	2,451	2,445	77	0	8,515	4,480	109	770	878	457	3,341	18,550

INF：インフォメーション・カウンタ REF：レファレンス・カウンタ BM：自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/B0 行徳駅前公園にある彫刻「大地」森豊一／作の設置の経緯を知りたい。昭和48年に区画整理組合から寄贈されたらしい。移設の際に銘板を紛失したのか、現在はタイトルと作者名のプレートのみ残っている。

質問者がすでに調査済みだったのは『区画整理のあゆみ』（市川市南行徳第二土地区画整理組合 1974）で写真のみの掲載。市川市文化振興課へ問い合わせたが経緯は不明。市川市ホームページ青空ギャラリーウォーキングマップにはタイトル・作者・設置年のみ。

(<http://www.city.ichikawa.lg.jp/pr/tokusyu280607.html#08> H27. 8. 10 確認)

「行徳駅前公園」や「南行徳第二土地区画整理組合」で各種検索を行ったが、経緯に関する情報はなかった。『行徳郷土史事典』（鈴木和明／著 文芸社 2003）p. 137 に、組合記念碑裏側のプレートに概要が記されていると記述あり。『明解行徳の歴史大事典』（鈴木和明／著 文芸社 2005）p. 344 には記念碑文「区画整理事業概要」が掲載され、碑文プレートは今はないと記されている。また、『美術名鑑 '80』（美術公論社 1980）p. 499 に森豊一氏の略歴あり。

I/V9 市川にあった演芸場について調べている。^{まさおがいるる}正岡容などが出入りしていた「市川鈴木」等について書かれた資料を見たい。

『市川まちかど博物館』（いちかわ・まち研究会 1997）p. 108-109 に「市川鈴木と正岡容」という項目があり、鈴木の写真も掲載されている。市川の演芸評論家である小島貞二の資料も確認したところ、『小島貞二の世界』（市川市文学プラザ 2009）p. 38 に鈴木の本の記述の他、行徳（現在の市川市本行徳）にも^{ことぶきかん}寿館という演芸場があったと記載されていた。他に『下総の唄歌』（岡崎柁男／著 単独舎 1985）p. 28 でも、行徳・寿館の名前が確認できた。

過去に、市川市文学プラザ（現・市川市文学ミュージアム）で小島貞二の企画展を行っていたため、文学ミュージアムに問い合わせたところ、『現代落語論』（立川談志／著 三一書房 1965）p. 174-177、『大塚鈴木』は燃えていた』（渡邊武男／著 西田書店 1995）p. 108-129、文学ミュージアム所蔵の『寄席の系図』（小島貞二／著 上野鈴木演芸場 1971）p. 21-25 にも市川鈴木について記述があることが分った。

I/X1 市川の十二社神社のことが記載されている資料を見たい。

- ①『市川散歩 No. 2 八幡・曾谷・大野』（市川市教育委員会 発行年不明）に、「昔の古八幡村の鎮守で天神5社、地神7社、合わせて12社を祭神としています。」と記載あり。
- ②『市川市史 第2巻』（市川市 1974）p. 668 「市内所在神社一覧」に、「祭神 十二社大神、祭礼日 十月十五日、所在地 八幡四一十五一四」と記載あり。
- ③『市川市勢総攬』（市川市勢調査会 1934）p. 167 に「八幡字古八幡にあり本社は祭神不詳なれども里人の信仰厚く大正五年中此れが改築を企て同年十一月工成りて遷宮式を擧ぐ境内古松老杉蒼然とし面積二三八坪を算す古八幡の氏神たり。」と記載あり。
- ④『千葉県宗教法人名簿 平成13年2月』（千葉県総務部学事課 2001）p. 17 に十二社神社の所在地・連絡先・代表役員名・認証年月日（S29.03.01）等が掲載されている。千葉県総務部学事課のホームページにも現在の宗教法人名簿あり。
- ⑤『たくみぼり彙報 第1巻』p. 153、『たくみぼり彙報 第3巻』p. 102（共に鈴木恒男／

著 1994 増補追補)に、十二社神社の名前の謂れとして、「一説には古八幡村は十二戸からなっておりその家々の神を祀ったものだからともいふ」と記載されている。

⑥『郷土と庚申塔』(遠藤正道/著 飯塚書房 1980) p. 88-89 に境内にある 3 つの文字塔についての記載あり。

⑦『市川市の石造物』(市川歴史博物館 2008) p. 120 に境内にある大正 5 年 11 月の改築記念の石碑の銘文について記載あり。

⑧市川市ホームページ街かどミュージアム「八幡・菅野界限発見マップ」に写真等掲載あり。
(<http://www.city.ichikawa.lg.jp/cul01/1421000003.html#12> H27. 8. 10 確認)

十二社神社と連絡先(代表役員)が同じである葛飾八幡宮に問い合わせたが、十二社神社に関する資料はないとのことだった。

322. 1 明治時代の勅令で神社の玉串料や合祀についてのものが見たい。玉串料の勅令は 96 号だったということは記憶している。明治 30 年頃ではないかと思う。

「現行日本法規索引 年別 (1) 明治元年から昭和 55 年」より、明治 39 年の索引で 96 号「府県社以下神社神饌幣帛料供進ニ関スル件」を見つけるが、廃止法令は収録されていないため、国立国会図書館のデータベース「日本法令索引」の廃止法令検索で確認した。

(<http://hourei.ndl.go.jp/SearchSys/viewEnkaku.do?i=RGyaYrCZ21uNTowfJ1t3pQ%3d%3d>H27. 8. 10 確認)
リンク先の国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」「デジタルコレクション」及び「国立公文書館デジタルアーカイブ」から、『法令全書』『官報』及び「御署名原本」のデジタル画像で当該勅令を見ることができる。他に、神社合祀に関する勅令として、明治 39 年勅令 220 号寺院仏堂合併跡地ノ譲与ニ関スル件」を確認することができた。

 **G I V E U P !** ご存知の方はご教授下さい。

I/B6 旧千葉県血清研究所(市川市国府台 2 丁目)跡に現存する「赤レンガ」建築物について、建てられた正確な年代(明治 34~36 年頃といわれているが)を知りたい。陸軍の銃器庫であったといわれているが、建築時の使用目的も分かれば知りたい。

『千葉血清のあゆみ』(千葉県血清研究所 1977) p. 120 及び『赤レンガ通信』No. 1、No. 4 (赤レンガをいかす会 2010、2011)によると、解体された棟の屋根の梁の上に「明治 37 年之建」の板がのせてあったのを、血清研究所員 2 名が見ていたことがわかる。また、現存する棟の梁にあったとされる木札が今も保管されており(赤レンガ通信 No. 4 に写真あり)、これには「起工明治 36 年 3 月 6 日竣成同 36 年 3 月 31 日」とあり、竣工ではなく、工期が 25 日しかないため、屋根等の改築ではないかとも考えられていること、また、明治初期に多用したフランス積みといわれる工法であることから、竣工年代が遡る可能性もあるのではないかな等の記述がある。

当館所蔵の資料では年代を特定できるものはなかった。アジア歴史資料センターの「アジア歴史資料データベース」(<http://www.jacar.go.jp/> H27. 8. 10 確認)で、国府台関連の記録を検索すると、明治 19 年陸軍省参大日記に、国府台の火薬庫等に関する記録として「騎工両隊弾薬及火薬格納方の義に付伺」が、また大正 12 年の陸軍省大日記の「国府台各部隊火薬庫移築工事実施に関する件」では「鉄筋臥梁ヲ附シタル煉瓦造ニテ構築スルコト」という記述が見られるが、現存の赤レンガ庫に鉄筋は使われていない(質問者談)ことや、敷地内の場所も特定できないため、これら文書との関係は不明である。千葉県立中央図書館と国立国会図書館に調査依頼をし、県議会史、帝国議会期の予算書・決算書、陸軍省年報、陸軍省統計年報等を確認してもらったが、個々の建築物の築造や改修に係るような詳細な情報は確認できなかった。

→TOPICS

TOPICS 陸軍教導団から千葉県血清研究所へ

明治 18 年~明治 19 年にかけて、東京市内にあった陸軍教導団(下士官養成機関)が、大学建設予定地であった現在の市川市国府台に移転となり、陸軍の施設が次々に建設された。明治 32 年教導団廃止後、兵営跡は野戦砲兵第 16 連隊等の軍隊施設として使用され、戦後は GHQ に接収の後、国へ返還された。その後、閉鎖中の中山競馬場で行われていた血清製造業務が、競馬場再開のため、現在の国府台 2 丁目にあった独立工兵第 25 連隊跡に移転となり、跡地にあった赤レンガ倉庫等の施設は、千葉県血清研究所(昭和 21 年 12 月開所~平成 14 年閉鎖)として使用された。開所当時、赤レンガ倉庫は 2 棟あり、1 棟(事務所等に使われていた大きい方の棟)は昭和 45 年に解体されている。

参考資料:『千葉血清五十年史』(千葉県血清研究所 1997)、『市川市国府台-軍都から学術文化都市への生活空間の変容』(田中由紀子/著 和洋女子大学大学院総合生活研究科 2009)、『解説・陸軍国府台部隊』(高橋功/著 2005)他